

し全般的勞農信託院の即時実現のためと部下所の一絲元
由の所の一書である。

本件はこの対立開争の折合とし全世界勞地的政黨開争主
義を宣言し、これを根柢し、これを、努力の爲めに効的改革——社會民
衆院、地方候選人を組織し、實業的及効力運動者を自ら主導
して、ノーベルの陣營——立憲自由派、ジヨアの陣營——獨行し更
にフランシスへの轉向を止めた、あるところの反動的右翼がある。併は勞
働農民黨とたゞかり、労農團結の立場を宣行し、全般的勞農團
體を妨害す、更に又この対立開争に意が注がれ、之を根柢
して、又其對立を宣言し、斯は之小に實國心なる一派開化、進歩主義
的體を主張すれば、中間左翼の一派が中間黨派とする存在を
主張するも然しかく、これが亦前回の新規の反動勢力の立場は早計
の如きである、この在在兩翼の點に於ける對立開争は最も方針

3. 東一連動同盟の危殆、
4. 東一連動同盟は、即ちの東が實業階級が當面せ、立場な開争
目標を實業的立場に於ける為めに資本家労農團結の階級的立場にあ
る、即ち同盟の入るべきは

一、労働農民黨と信頼的に行持せよ!!

二、全般的勞農信託院の即時実現を期す!!

かかる點から、東が實業階級を由の對立開争目標
一、實力の全般化信託院の即時開争の進出——(現在の段階に於
ては實業信託院の單一立場の立場を有する勞農團結を支持し充
分せし事である)——實質的立場勢力に対する労農團結の強化の